

開催地名	福井県敦賀市
開催日時	令和5年10月14日（土） 10：00 ～ 11：30
開催場所	きらめきみなと館
語り部	武藏野 美和 （岩手県陸前高田市）
参加者	防災士会、女性防火クラブ、区住民等 53名
開催経緯	本市では、大規模で広域な地震災害、津波災害の経験がないことから、東日本大震災を経験された語り部を介し、大震災の教訓や日頃の備え、避難所での生活について講演をいただき、今後の自主防災活動や地域防災力の向上に繋げたい。
内容	（１）防災とはなにか 防災とは災いを防ぐことである。それは自然災害に特化したことだけなのか。そうではなく、人の生命や財産等に全てに影響を及ぼす事象、生活そのものを脅かすこと、人の笑顔を奪ってしまうことが、災いである。新型コロナウイルス罹患による中傷やいじめなど、人為的な災いもある。 個人の心の持ちようとして何かできないかを考えることが防災であり、予防である。病気にならないように予防注射を受ける、事故に遭わないように交通ルールを守る、留守にするときは施錠する、近所の人々と声をかけあうことは安否確認につながる、等、自然災害を防ぐだけではない防災が多くある。常日頃から行っている行動が、防災であり予防であることを自覚することが重要である。 （２）避難について 東日本大震災以降、陸前高田市では、当時の津波を想定した避難訓練が行われているが、高台にある避難所へ行くという形骸化した訓練になってしまっている。必ずしも高台に逃げることだけが避難ではなく、そこに留まることが避難になることがある。この地域にも多くの避難所が設置されているが、どんな災害のときに行ける避難所なのか、そこに行くべきなのか、自宅にとどまるべきなのか、ひとりひとりが考え、備えをすることが重要である。 避難情報警戒レベル4で避難指示となるが、避難所へ行けということではなく、危険な場所から避難するということであり、自分自身の避難場所を決めておく必要がある。自宅が安全な場所であれば、危険を冒してまで避難所へ行かないほうが良い。天気予報でよく耳にする、1時間に100ミリの雨、風速40メートルの風、等、これがどのくらい危険なことなのか、どのような危険が予測されるのか、日頃から意識しておかなければならない。

	避難情報の発出を待つ必要はなく、自分の判断で避難できるようにしておかなければならない。ハザードマップは災害が起こる可能性が高い場所を示しているが、安全な場所を示すものではなく、どこでも災害が発生し得ることを理解しなければならない。避難というのは難を避けることであり、その時に安全でいられることを考えておくことが避難である。避難所に行くことだけが避難ではないということを理解する必要がある。 備蓄はローリングストックをし、日頃から万が一を考えて、自分にとって必要なものについては、自分で備えることが、自分の命を守ることに繋がり、地域で助け合うことにも繋がる。 (3) 避難所の在り方を生活者の視点で考える 避難所とは、災害等によって自宅で生活ができなくなった者が生活の場を、仮の場として過ごす場所の事である。避難所では老若男女問わず助け合い、次の一步へ進むことの工夫を考えていくべきである。しかし、避難所へ行くことだけの避難をするのではなく、安全な場にいる人はそこにとどまることが避難完了であり、地域で避難完了が確認できるようにするため、日頃から地域で声をかけあうことが重要である。これが地域の避難所の在り方となる。 日々の生活が穏やかにしていくことが防災であり予防である。地域の中の家族単位で災害に対する備えを話し合っておくことが重要であり、ひとりひとりがリーダーとなって、地域の防災力を高める意識をもっていただきたい。
開催地より	東日本大震災を経験された語り部から、災害発生時の避難の状況、地域での関わり的重要性、平常時の災害の備えや心構えについてわかりやすくお話しいただいた。住民に対する備蓄の呼び掛けや、指定避難所のマンホールトイレや携帯用トイレの整備及び備蓄をより充実させていきたい。